

平成29年度 調布市立第三小学校 学校経営計画

学校教育目標 ○明るく健康な子ども ◎自主的に学ぶ子ども（重点） ○情操の豊かな子ども

目指す学校像(ビジョン)

- 児童にとって 満足感、達成感、安心感のある学校→自他の成長を互いに認め合い、一人一人の子どもの居場所がある学校
- 保護者・地域にとって 親しみと信頼のある学校→誠意ある対応をするとともに、情報を発信する学校
- 教職員にとって やりがいと充実感のある学校→切磋琢磨し、教職員・児童の伸びが実感できる学校

本校の現状と課題

- 児童は、何事にも前向きに取り組み学習規律もほぼ備わっている。今後も習熟度別指導や問題解決的な学習を進め学力向上を目指す。特に今年度は、調布ベーシック・プランに基づいた指導を確実に行う。
- 10月27日の調布市研究推進校発表会に向けて研究主題「学ぶ楽しさを味わえる授業の創造」のもと、主体的・対話的で深い学びの視点で児童の思考力・判断力・表現力を育成する校内研究の充実を図る。
- 児童は、明るく素直であいさつもよくできる。より一層規範意識の定着や自尊感情を高め、情操豊かな児童の育成に努める。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標
				※ 数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	自ら学ぶ姿勢や習慣を身に付け、学ぶ楽しさを実感する子どもの育成	習熟度別指導により確かな学力の定着を図る。	○算数習熟度別指導推進委員会（進行管理者・推進委員を指名）を位置付け、算数習熟度別指導の効果的な実施方法について校内研修を実施する。 ○新たな習熟度別指導で算数の授業展開を行う。 （習熟の程度に応じた習熟度別指導の徹底・学年を超えて分からない場所に立ち戻る指導の徹底・「できる」「分かる」まで繰り返し指導の徹底） ○調布ベーシック・プランの下、東京ベーシックドリルを活用し達成水準をクリアする。	○学校アンケートによる評価が、「学力」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。 ○算数ノート1冊終了ごとに校長から全校児童に賞状を渡す。
		主体的、対話的で深い学び視点で児童が達成感を味わう個に応じた指導を図る。	○主体的、対話的で深い学びの視点で児童の思考力、判断力、表現力を育む。 ○3、4年生の外国語活動導入により、コミュニケーション能力の育成に努める。 ○授業改善推進プランに基づき、ICTを活用し、個に応じた指導と評価を行う。（指導と評価の一体化） ○家庭学習の意義、内容、量について教職員全体で共通理解し、家庭学習の習慣化を図る。	○学校アンケートによる評価が、「分かりやすい授業」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。 ○学校アンケートによる評価が、「家庭学習」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。
健全育成	特別支援教育の充実を図り、規範意識を高め、互いに認め合い、支え合う子どもの育成	いじめゼロの継続を図る。	○「いじめ相談窓口」の職員を指名し、年度当初の保護者会で説明する。 ○「いじめ防止対策基本方針（改訂版）」の下に、全教職員で組織的な取組をする。 ○SNS東京ルールを踏まえていじめは絶対にいけないことだという指導を徹底させる。 ○日常観察や帰りの会の発言に加えて年3回のふれあい月間のおりにアンケート調査を行う。さらにスクールカウンセラーによる5年生全員面接を行うことで、実態を把握していじめの未然防止、早期解消に努める。 ○重大事態が発生した場合は、対応フロー図に従い組織的かつ迅速に対応する。	○学校アンケートによる評価が、「人間関係」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目指す。
		豊かな心の育成を図る。	○道徳教育推進教師を指名し、全体計画、年間指導計画、別様に基づき意図的・計画的な指導の推進を図る。 ○「特別な教科 道徳」を踏まえて、「考える道徳」「議論する道徳」の実施及び評価の工夫に取り組む。 ○人権教育の全体計画、年間指導計画に基づいた指導により、自分も他の人も大切に育てる。 ○教師の人権感覚を磨き、体罰、暴言は子供の人権侵害にあたることを自覚した上で指導にあたらせる。 ○東京都の「学校と家庭の連携推進事業」を受け、支援員、スーパーバイザーの支援により細やかに対応する。 ○特別支援コーディネーターや特別支援教室専門員、臨床発達心理士を活用し、特別支援教育の充実を図る。	○学校アンケートによる評価が、「豊かな心」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目指す。
健康・体力づくり	健康についての正しい知識に基づき自分で自分の健康管理をする子どもの育成	体力の向上を図る。	○スポーツ庁委託事業「子供の体力課題対策プロジェクト」を受け、人・物を充実させ体力向上を目指す。 ○体力テストの結果を分析して指導し、児童が結果を受け止め、より伸びようとする意欲につなげる。 ○週に1回の「わくわくタイム」や火曜日の30分昼休みを活用し運動に親しみ運動の日常化へとつなげる。 ○「マラソン月間」「縄跳び月間」の際には記録し、走った距離、跳んだ回数をもとに記録証を授与する。 ○縄跳び名人を講師に招き、模範演技を見たり、直接指導を受けたりして縄跳びに対する意欲を育てる。	○学校アンケートによる評価が、「体力」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。 ○校長が記録証を全校児童に授与する。
		食育の推進を図る。	○アレルギー事故を起こさないためのシステムを確立し、全教職員・全児童が順守する。 ○12月の「いのちと心の教育月間」に校長講話と全学級授業公開し、命の大切さの指導を徹底させる。 ○食育全体指導計画、年間指導に基づき、担任と栄養士による食育の授業を実施する。 ○6月に給食試食会を設け、アレルギー対応を含めた食育指導を公開し、保護者の理解を図る。 ○保護者に食育に関心をもっていただけるように毎日の給食写真と一コマをホームページにアップする。	○学校アンケートによる評価が、「食育」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。
保護者・地域	保護者・地域・関係諸機関との連携により生涯にわたって自尊感情を高め、自己実現を目指す子どもの育成	広報活動を推進し、情報発信に努め、学校教育の理解を図る。	○学校だより、校長だより、学年だより、学級だよりの充実を図り、児童の様子を家庭や地域に伝える。 ○学校便りの配付先を保護者、学校関係の団体責任者に加え、自治会での回覧を依頼し、広くお知らせする。 ○週に1回以上ホームページをアップし、学校の教育活動の情報発信を行う。	○学校アンケートによる評価が、「情報提供」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目指す。 ○年間アクセス20000以上を目指す。
		保護者・地域との連携を図る。	○「ちょうふ花園」で高齢者との交流を行う。地域の畑で農業体験を行い、収穫の喜びを実感する。 ○調布市防災教育の日に加えて、「第三小学校地区まちづくり協議会」と共催した防災訓練を10月に実施し、危機意識を培う。 ○交通安全運動期間中に「第三小学校地区まちづくり協議会」と保護者からも児童への指導をいただく。 ○PTA図書サークルの協力を得て「花いっぱい運動」「花の子キャラバン隊」の推進を図る。 ○PTA・健全育成の協力を得て、「あいさつ運動」を実施し、進んで挨拶ができる子を育てる。 ○健全育成主催の「ソフトボール」「餅つき大会」「わいわい広場」等の行事参加を通して交流を図る。 ○学校アンケート、学校評議員会、学校関係者評価委員会の指摘を生かして教育課程を編成する。	○学校アンケートによる評価が、「地域・保護者との連携」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。 ○地域行事に参加した児童を全校朝会で認め参加意欲を高める。 ○教員も1年1回以上の参加を目指す。 ○学校アンケートによる評価が、「挨拶」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。
	オリンピック・パラリンピック教育推進校として、国際社会に生きぬく子供の育成	読書の習慣化、異学年交流を通して情操豊かな人間関係の育成を図る。	○1、2年による生活科の交流活動、4、5年の総合的な学習の時間「けやき」の時間を活用した共同学習等で、多くの異学年交流を図る。 ○「なかよしタイム」「なかよし広場」等異学年の交流により、望ましい人間関係を築く。 ○PTA図書サークルの協力を得て、月1回「おはなし会」を開催し、情操豊かな児童を育成する。 ○週2回全学年で朝読書を実施する。その際、保護者による読み聞かせも計画的に行う。 ○6月と10月に読書週間を設けて、児童が互いにお勧めの本を紹介し合い、読書に親しむ機会を増やす。	○学校アンケートによる評価が、「思いやりの心」の項目で「あてはまる」が90%以上を目指す。 ○縦割り班活動の年間12回以上の実施を目指す。 ○学校アンケートによる評価が、「読書の習慣化」の項目で「あてはまる」が90%以上を目指す。
		オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。	○「世界のお友達プロジェクト」を受けて、大使館との交流を図る。 ○オリンピック、パラリンピックから直接的な交流やオリンピック、パラリンピックの歴史・意義を学ぶ。 ○10月9日に行われる調布市小学生タグラグビー大会に向けてクラブ活動を中心に取り組む。	○学校アンケートによる評価が、「オリンピック・パラリンピック教育推進校としての成果」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目指す。